

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



防犯機器等購入補助金の対象：アパートを含む中古住宅も可

総務常任委員会の予算審査で詳細を質疑

対象住宅は戸建て以外のアパートも可能か
かと聞くと、戸建て、共同住宅、分譲住宅、賃貸住宅のいずれも可と言うことでした。ただし、賃貸の場合、居住者本人が申請し、管理者か所有者の承諾が必要と言うものでした。かつ、申請者が町田市民であり、建物も町田市にあるものに限られます。防犯機器等というのは、防犯カメラ、モニター付きインターホン、面格子、人感センサー、防犯フィルム、防犯性の高い錠や補助錠、雨戸、シャッター、ダミーカメラ、サムターンカバー（ドアの内側にある施錠部分を覆うもの）、カム送り防止具、ガードプレート（扉と扉枠の隙間を塞ぐもの）、ガラス破壊センサー（ガラス破壊の振動を感知して発報するもの）、防犯砂利（踏むと大きな音が発生する砂利）、「防犯カメラ作動中」等の防犯シール などの幅広い機器と工事費が相当すると言うことでした。

対象となる防犯機器等の購入に要した費用の2分の1、千円未満切り捨て、上限2万円、1世帯につき、1回の申請ということでした。

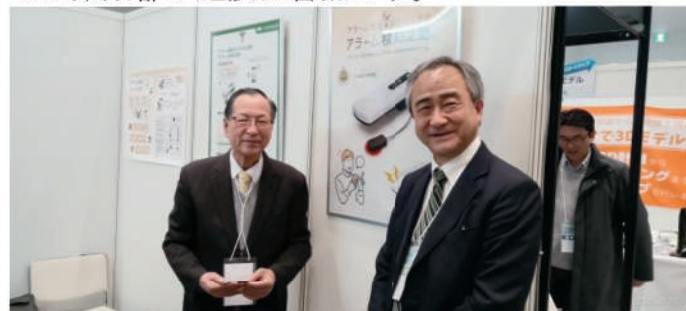
また、本年4月1日以降に購入した場合を対象として、本年5月15日から12月25日まで申請を受付分が有効です。予算に達したら終了となります。担当は市民生活安全課。

例：左のインターホンや下の玄関錠などが対象です。
吉田自宅玄関で撮影



一般質問：「たまた未来産業フェア」と町田市内企業の取組

多摩地域（東京市部と町村部）で唯一開催される産業展（見本市）である「たまた未来産業フェア」に出店した町田市内企業の取組について、一般質問において、尋ねました。この産業フェアは東京都が開催するもので、毎年、八王子市内にある「東京たま未来メッセ」（東京都立多摩産業交流センター）が会場とされています。ちなみに、町田市内にこうした東京都の施設は皆無です。



昨年と今年の2回の開催（私は個人で2回とも会場視察行方）ですが、町田市内の参加企業メンバーに変化が見られるが、事業の趣旨と参加企業の変化はどういうものであったかと尋ねたものです。私の感じたことを、「出展者の展示品として、いわゆる隙間商品的なものが出展されていたが、多摩地域の多種のメーカーが参加していることで、その出店者同士の関係は自ずと希薄で、かつ、一般利用の商品が少なかった。メーカー取引自体を商業活動にすることを担う、機械の商社、卸部門の企業が関わる必要があるのではないかと思います。さらに、ぜひ、町田市からこうした見地を主催者に伝えてもらいたい。」と主張しました。

主催者がもともと町田市ではなく、東京都であるために、あくまで東京都に要求するべきものであり、町田市から改善を求められたいと限られた範囲で町田市に提案しました。来年に向けて、参加企業が継続参加しやすくなる、活発な参加企業間の取引や来場者との取引が行われることを願っています。

*会場では出展者の方とも親しく懇談しました。

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第
55期生が終了しました。

インターン体験記⑧-1 森田瑛斗

今回は健康福祉常任委員会(松岡みゆき委員長)を傍聴しました。地域福祉部と保健所の議案についての質疑、討論、採決が行われました。特に議論の中で難しいと感じた問題が、声を上げることの出来ない人の声をいかに拾っていく、情報が必要な人にいかに情報を届けるのかという点です。支援の体制がいかに整っていたとしてもそれを受けられるところまでつなげていかないと支援は意味がなくなってしまいます。昔であれば地域のつながりが濃く、家族で暮らしている人も多かったため、苦しんでいる人を見つけ出し、助けること体制が自ずと整っていたのかもしれませんが。関係のない赤の他人がどこまで首を突っ込むのかというのは非常に難しいですが、現代社会においては、“おせっかい”がもう少し必要なのかもしれません。



東京大学医学部6年生当時 森田瑛斗(第55期)

特に市区町村が連携を取るのには町内会などがメインになりますが、町内会も以前より参加する人数が少なくなっており、必ずしもすべての人と接触を持つことが出来ていないのだと感じます。支援が必要な方と接触を持てる機会がどこにあり、そこでどのように情報を伝えていくのかを把握することが大切だと思います。病院や役所、コンビニなどに来る機会といった接触を持てる機会を積極的に活用していくこと、各機関で普段から連携を取りどこにつなげていけばよいのかを各々が把握しておくことが必要だと感じます。

インターン体験記⑦ 森田 瑛斗

成瀬のレクリエーション大会：プレーにも参加

成瀬地区町内会・自治会のレクリエーション大会に参加させていただきました。中央町内会に温かく向かい入れて頂き一員として楽しませていただきました。午前中はパラリンピックでも注目を集めたボッチャ、午後はドッジビーが開催されました。ボッチャはチームごとに赤または青のボールを投げ、「ジャックボール」と呼ばれる白い球に近づけるようにします。ジャックボールにより近い球の数が自分のチームの得点になります(詳しいルールはジャパンボッチャクラブのホームページを見て頂けると分かりやすいと思います)。ただジャックボールに向けて球を投げるだけでなく、ジャックボール自体を動かしたり、敵チームや自チームの球に当てて動かしたりするといった多様な戦略があり、奥深さを感じました。初戦で負けてしまったため、フレンドリーマッチに回りましたが、その後は町内会の方々のファインプレーも重なり連勝することが出来、喜びを分かち合うことが出来ました。ボッチャは老若男女問わず参加でき、初心者でもある程度活躍することが出来るため、町内会のイベントとしては非常に優秀だと感じました。

午後のドッジビーでは運動靴を忘れたこともあり、はだしでの参戦となりました。徐々に試合を重ねるにつれ、練度が上がり、試合のスピード感が上がっていったのが印象的でした。中央町内会の皆さんのおかげで非常に楽しい一日を過ごすことが出来ました。様々な年代の方々と交流を深めることが出来、地域社会のつながりの大切さを感じることが出来ました。人とのつながりが薄くなっている現代ですが、人と人とのつながりが社会に安心感を生み、住みやすい街づくりにつながっていくのだと感じます。



東京大学医学部6年生当時 森田瑛斗(第55期)
(発行時研修医)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年3月末までに111名が参加しました。

◎第55期インターン生の森田瑛斗さんは、医師国家試験に合格し、4月1日から研修医として社会人。

◎次回のインターンシップは、2025年夏季第56期生の募集を開始しました。